

150th Anniversary 清央小だより



令和6年度 第14号
2024. 9. 13

教	「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」
育	・自ら学び工夫する子ども (考える)
目	・元気でがんばる子ども (鍛える)
標	・礼儀正しく思いやりのある子ども (思いやる)

※本たよりの本文は、ユニバーサルデザインのフォントを使用しています。

学校の働き方改革の現在地

社会全体で「働き方改革」が言われ始めてから、多忙といわれる教職員の働き方改革も脚光を浴びるようになりました。すでに報道等でご承知の通り、国では、教職員の給与上乘せに関する取り決めや小学校での教科担任制の促進、授業時数確保の弾力的な対応など、働きやすく魅力ある職業とするため議論が交わされています。

厚生労働省では、「働き方改革」は、「働く方々が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で『選択』できるようにするため」としています。さらに、文部科学省では「学校の働き方改革」は「児童生徒と向き合う時間を確保するため」としています。この「児童生徒と向き合う」ためとは、直接子供と接する時間だけでなく、子供と最も向き合う時間である授業のための教材研究や準備等の時間も含まれます。

学校の先生に関係する、ある興味深い数値があります。

6分

41%

この二つの数字は、ある調査の結果ですが、何の数字かご想像できるでしょうか。

「6分」は、担任を持つ公立小学校教員の「給食を食べる時間」の平均です。「給食の時間」ではありません。「食べる時間」です。これを多いと思うか少ないと思うかは人それぞれだとは思いますが、少なくとも子供たちによく噛んで食べまじょうと指導している先生方が、よく噛んで食べられる時間ではないような気がします。

「41%」は、全国公立小学校教員の「睡眠不足の割合」だそうです。睡眠時間の確保については、様々な事情もあるので、一概に学校の勤務が原因とは言い切れませんが、翌日にベストなパフォーマンスが発揮できる状況かという点、やはりこれもそうでないような気がします。



本校の先生方にも、給食を食べる時間と睡眠時間についてアンケートを取ってみました。

給食は平均で「約11分」でした。全国平均より長いのは、先生方のご指導もあり、日ごろの子供たちの給食の準備や食事時の態度がよい結果だと思います。それでも先生方は、食べながら児童に目を配るわけですから、仕事から離れてリラックスして食事をしている状態ではありません。

睡眠時間の平均は「約5.8時間」でした。国が示す睡眠時間の目安は7時間なのだそうです。私もそうですが、なかなか7時間は取れないです。とはいえ、7時間の睡眠時間が取れるようなワークライフバランスが理想なので、先生に限らず、社会全体で目指していけるとよいと思います。



本校では、保護者の皆様や地域の方々から多大なご協力を得ており、こうしたことも、私たちの働き方改革に大いに貢献してくださっていることとなります。心から感謝申し上げる次第です。

「学校」、「家庭」、「地域」が手を取り合い、共に目指す子供像の育成に向かって「みんなで子供を育てる」、そんな意識をもって今後も取り組んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



(文責：校長)